

前回の政策評価部会で議論された論点に対するご意見
(山名委員)

1. 原子力発電

○ 原子力発電の新・増設について

【論点】

- ・ 我が国の低炭素戦略において、原子力発電の規模や導入計画が、政策的にも事業としても十分対応出来ているか。(追加)
- ・ 高速増殖炉の開発は、適切に進められているか。(追加)

○ 既設の原子力発電施設の活用について（設備利用率向上、経年化対策、保守・管理技術の高度化、運転中検査技術の採用など定期検査の高度化、長期サイクル運転等）

【論点】

- ・ 最近のトラブル事例からすると多くの電力会社の原子力発電所の運転管理技術基盤は劣化していないか。電気事業総体として、技術リスク管理の観点から、運転保守の自営化により体力（知力）を涵養することやPWRとBWRの両方の保守を行う組織体の創設などについて検討すべきではないか。古いプラントの長期的な維持に際して、技術者の世代交代や技術伝承について、十分な対策が取られているか。（下線部追加）
- ・ 低炭素戦略との整合で、負荷追従運転の必要性はないか。(追加)

○ 我が国の原子力分野における国際展開について

【論点】

- ・ 世界的な原子力リネッサンス、原子力拡大市場の急展開を受けて、省庁及び関係事業者による、海外状況に対するフォローアップがタイムリーに行われているか。国として原子力の国際問題について一元的に対処する体制は十分であるか。(追加)
- ・ 核燃料供給保証への取り組みは進んでいるか。(追加)

2. 核燃料サイクル

○ ウラン濃縮事業について

【論点】

- ・ 今後、濃縮事業は国際的に供給過剰になり、熾烈な競争となる。新たに濃縮事業への参入を目指す国々を含めた議論に巻き込まれる可能性を踏まえ、どのような説明で我が国の濃縮事業を維持しているのか考えて

おく必要があるのではないか。併せて、あるべき国内濃縮事業の規模について、最新の状況から検討する必要があるのか。（下線部追加）

○ 再処理工場及びその関連施設の建設・運転の現状及び今後について

【論点】

- ・ 国内での再処理技術が再処理事業化にどのように反映されているか、国内での再処理技術の開発体制は、六ヶ所支援や将来の再処理事業をにらんだ上で、十分であるのか。（追加）

○ 軽水炉によるMOX燃料利用について

【論点】

- ・ 軽水炉での MOX 燃料の利用のスケジュールについて、国内でのプルトニウム収支と六ヶ所再処理工場の竣工の遅れも勘案しながら、十分なものにして置く必要がある。（追加）

○ 中間貯蔵施設及びその後の処理の方策について

【論点】

- ・ 中間貯蔵施設の建設の立地問題に対して、十分に対応できているか。六ヶ所工場の竣工遅れを想定して、中間貯蔵施設の推進に対して、取り組みの強化が必要ではないか。（追加）

以 上